

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、6番、公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

武雄市は、まだまだ人口問題、さらには医療、介護、福祉、私は最優先課題、最重要視をさせていただいております。そういった中で、市長、市政の運営の原点は何でしょうか。まさに、このことは市民生活の向上ではないでしょうか。そういったことで、今回、3項目通告を出させていただいております。

まず1つに、今、各部署から予算の要求、さらに予算の説明があっているかと思っておりますので、23年度の予算編成に向けての確認。2つ目に、来年度、学習指導要領が改訂をされます。それに伴う教育行政について。3つ目に、現状の地域の課題と対応、対策について、今回通告をさせていただいておりますので、質問をさせていただきますが、まず1点目に教育行政について、次に平成23年度の予算編成に向けて、最後に地域の課題と対策、対応について質問をさせていただきますので、どうか簡潔な御答弁をよろしくお願いをいたします。

さて皆さん、国会も今月3日に閉会をいたしましたけれども、課題がまだまだ山積しております。外交では、沖縄の普天間基地の移設問題、さらには中国との尖閣諸島問題、さらには北朝鮮の砲撃、また、午前中にも質問が出ておりましたTPP——環太平洋経済連携協定への対応など、課題が山積みでございます。

内政でも、景気がなかなか回復せず、地域経済が疲弊して、就職率も最悪でございます。また、子ども手当など、子育て中の世帯は非常に助かってはおりますけれども、支給に対する財源がなく、扶養控除の廃止、さらには基礎年金の国庫負担2分の1が財源不足という状況に陥っております。今の菅政権、政府・与党は決断力、一貫性がなく、政治が不安定と言わざるを得ません。

一方、社会にも目を向けてみますと、考えられない、考えがたい非情な事件、事故等が毎日のように報じられ、今の社会風潮を危惧しておる一人でございます。

ただ、そういった中で、希望の、また奇跡の明るい話題がありました。皆さんも行かれたかと思っておりますけれども、この夏、小惑星探査機はやぶさが60億キロの旅を終えて、見事帰還をし、今回、その雄姿を武雄の宇宙科学館ゆめぎんがで間近に接することができました。60億キロ、余りけたが多過ぎて、ぴんときませんけれども、日本列島が3,000キロでございます。地球1周が4万キロ、地球から月までが38万キロ、それが60億キロですから、地球から月までの往復約2,000回弱を、このはやぶさは飛び続けました。2003年から7年間、4台のエンジンを抱えながら、3基は故障しながら、いろんな危機を乗り越え、生還をいたし、この事業の成功に携わったスタッフの執念と技術力のすごさ、宇宙航空研究開発機構には、あきらめない大切さを知ったとの声が多く寄せられております。教育の視点からも、学校から、あるいは保護者と一緒にとくさん子どもたちも実際に目に触れ、感動したことだと思いま

す。

そこで、教育行政の冒頭の質問になりますけれども、このはやぶさのあきらめない大切さ、教育の原点と私は考えますが、教育長、教育の原点について、このはやぶさを通じて、教育長の御見解をまずお尋ねさせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

小惑星探査機はやぶさの展示は、本当に私どもに感銘を与えてくれました。市内学校からも約800名以上の子どもたちが見学させていただいております。

確かに、科学技術のすばらしさ、理科離れが言われますけれども、科学のおもしろさ、それからもう1つは、おっしゃいましたように、長い年月をかけてという科学ならではの、科学とはこういうものだという、どうしても私ども、性急さを求める時代でありますけれども、科学そのものの魅力を認識させてくれたのではないかとことを思いますし、また、地球規模の視点というのが子どもたちは持てたんじゃないか、あるいは、まだまだなぞが多いんだという未知なものへの夢、あるいは、いろんなドラマ性もありましたし、そういうことをたくさんの学ぶ視点があったというふうに思いますし、生かしていきたいものだなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひですね、先ほど私も冒頭に申し上げました、あきらめない心といいますか、あきらめない教育方針を現場でぜひとも伝えていっていただきたいと念願する一人でございます。

こういう教育理念もあります。教育は、子どもの幸せ、幸福のためにあるという教育の指導者もいらっしゃいます。そういった中で、いろんな子どもたちの事件、最悪な事件等もございますので、心のゆとりある教育をぜひともお願いをしながら、先ほど、市内の小・中学校も800人ほど行かれたということでございますけれども、九州初公開ということで、チラシも子どもたちが持って帰ってきておりました。そういった形で、学校側にぜひ、いろんな、時間が限られた中で、ぜひ参加を、見せてくれということで、教育委員会、また教育長等から、そういうふうな要請を各学校にされたかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

最初、余り喧伝されていない時点でありましたけれども、各学校にこういうことで紹介を

しまして、そして、可能な限り市のバス等も利用して、800名と申しましたけれども、地元の御船が丘とか武雄中、武雄小のあたりは個人で行かれた人を除いておりますので、実際は1,000人をはるかに超えていただろうというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も行きました。そのときに、学校単位で、100名、200名単位で生徒たちが来ておったものですから、ぜひともですね、もう九州で初めて、また、ほんな身近な宇宙科学館であります。で、めったにない機会ということですので、またこういう機会があるときには、そういうふうな機会を子どもたちにぜひとも与えていただきたいということをお願いしながら、本論に入っていきたいと思えます。

学力向上の取り組みについてということでお尋ねをさせていただきますけれども、ちょっと入る前に教育長に、単純な質問といいますか、学力の向上、学力とは何ぞやという部分ですね。辞書で学力と、ちょっと調べてみますと、学びの力、学ぶ力、あるいは学習で得た力量。学習とは何ぞやという部分の中で、学習とは勉強、いろんな学問や技術、芸術を学ぶ、勉強するということ、もう1つは、新しいものにいかに適応していくかと、また適応の仕方を習得させるのが、また学習というとらえ方がされております。

そういった中で、先ほどの杉原議員の中で、いろんな、点数で、いろんな学校の評価も出てきているかと思えますけれども、学力と見たときに、幅広い部分があるかと思えますけれども、その辺の考え方といいますか、学力向上という質問をさせていただく前に、学力とはという、そこをしっかりとっておかんと質問がぶれてきますから、教育長として、そういうふうな学力とは何ぞやという部分の中で御答弁をお願いしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学力とは何かというのが一番たくさん意見が、考えがある論議だというふうに思えます。

それで、例えば、今回も、ほかにも質問出ておりますが、生きる力といったときには、学力と心と体力と、知徳体を言っているわけでありまして。そのときは、要するに、学ぶ面を言っているわけでありまして。

先ほどの基礎基本をA、活用をBとした、あのA、B合わせたものというふうにとらえたが一番わかりやすいのかなというような気もいたしております。広く体力面、動きを含めた大きな学力というとらえ方もありますけれども、議論の混乱を避けるためには、そういう分けて考えたほうがいいのか。そうしますと、普通、学校で教えるときには、指導要領に

書いてあるような各項目、それがやっぱり子どもたちの実際に習得すべき力として、学力として考えていくべきかなというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

非常に難しいとらえ方といいますか、関連の考え方がいろんな部分であるかと思えますけれども、さっき教育長も言われた知徳体という三位一体の中での教育を学力という中で向上をしていただきたいという部分の中で、ちょっとさかのぼってみますと、2002年、今から8年前に週5日制が実施をされました。もう皆さん、8年になりますよ、週5日制が始まって。もう今はマンネリ化というか、当然のような状況ですけれども。

そういった中で、当時の学習指導要領を見てみますと、子どもたちに基礎基本を身につけさせ、みずから学び考える力をはぐくむことを基本的ねらいとして、教育内容の厳選と理解の程度に応じた教育指導の新要領のゆとり教育だったと思えますと、ゆとり教育だったという部分が当時の週5日制が始まる中での指導要領というような形で、私も確認をしたところですがけれども、来年度、幼稚園教育要領、それから小・中学校の学習指導要領が改訂をされます。改訂の中身を見てみますと、授業時間、時数の増加、1割増加、あるいは言語、理数教育、外国語教育の充実などが改訂のポイントとなっていますね。今回の、来年度からの改訂のポイントは。

そういった中で、先ほど言いました、もう8年になりますゆとり教育の中で、週5日制の中での限られた時間の中で、授業日数がふえてくるわけですね。そういった意味で、ゆとり教育と逆行しよつとやないでしょうかという問いかけですがけれども、今回の改訂、いろんな授業日数の増加とか、言語、外国語の教育の充実、あるいは伝統文化の充実と、いろんな部分の中でふえてきようわけですよ。そういった中で、ゆとりと今回の改訂。どういうふうな形で教育長としては受けとめられているのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思えますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ゆとりという言葉が言われがちですが、今回の改訂の一番の基本は、やはり生きる力をはぐくむという根幹は変わっていないだろうと、だろうやなくて、変わっていないわけでございます。

特に、世界的な調査などからも、日本の子どもたちの思考力や判断力や表現力、これが生きていないと、その力が弱いということが明らかになって、先ほどの学力調査等でも、もっとしっかり把握する必要があるということになっているわけでございます。

そういう意味で、生きる力を育成するという理念は持ちながら、なおかつ、その思考力や判断力や表現力と、そのバランスをとって指導していきたいと。それで、片方には、先ほど言いました道徳、あるいは体育等も大事なわけでありますので、そこのバランスを重視していくということであろうというふうにとらえております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

なぜかといいますと、後で私も質問をしていきますけれども、人材育成、あるいは人間の心の豊かさ、はぐくむ心は何から生まれてくるかというのは教育なんですよ、要は。学校現場での教育、そりゃ、家庭教育、地域教育も、いろんな教育もありますけれども、まずは学校教育の中で、そういう教えを子どもたちにはぐくんでいただきたいという部分があるものですから、ちょっと熱が入りながら質問というか、教育行政の長である教育長がどういうふうなお考えであるかを確認させていただいているところですけども、そしたら、今後、学力向上のためには、どのように教育現場としては考えておられるのかどうか、具体的にちょっと質問させていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

前提として、やはり知徳体の調和のとれた、しかも、少しでも高く調和のとれた子どもをはぐくむというのを武雄市の教育方針に出しているわけでございます。最終的には、義務教育でやりますので、ここを目指していくと。そして、現在、例えば、先日、市政アドバイザーの松尾先生にお話しいただきましたけれども、あれだけ英語を駆使して国際的に活躍されている人が、最終的には日本語、言葉ということを中学生の前で強調されたわけでありまして、言語力の向上というのを根幹に据えております。

それから、もう1つは、小中連携した中で、指導を充実させる中で学力をつけていくと、そういう学力。それから、先生方にとっても最終的には頼るところは、先生方の指導力でありますので、ここをしっかりと伸ばしていただくと。それから、先ほどの杉原議員のときに質問がありましたけれども、やはり家庭との、いかに連携がうまくとれるかと、子どもを中心にした形でどういう連携がとれるか。それから、いろんな体験も、機会もお願いしたいと。そういう中で、先ほど申しましたような学力というのが伸びていくのではないかということを考えているところでございます。学力向上のためということでは、そういうことを必要というふう考えております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

私も教育長の見解には大賛成なんです。私も、松尾亜紀子慶応大学教授がお話しされたときに、いやあ、こいからは英語が大切ですよって言んさっかと思ったら、英語の前に日本語ですよ、国語ですよと、こうおっしゃった。これは全く賛成。

ただ、私自身振り返るとき、私は家永塾というところ、行きよったですもんね、ちょっと変わったおじいさんで、私が行ったときは、もう80歳超しとんさったです。この方から教育を直接施されたときに、もう今は伝説になっていますけど、一番最初に覚えさせられたのは「長恨歌」ですよ、漢詩の。男女の機微を、ちょっとね、それを漢詩で教わった。そのときに、例えば、七言律詩であるとか、さまざまな漢詩を教えてもらったときに、何でこがんとば小学生の僕ちゃんが覚えんばいかんかなと思えよたら、今思えば、それがリズムとなって、日本語、あるいは漢語のリズムとなって体に蓄積されて、しかも、私は多分、読むのは同世代の人間よりかはるかに早いです。これは自分の能力じゃなくて、もともとそういうリズムがもう入っとおとですね。だから、そういう意味で暗記というとは、私は非常に大事だと思っています。ただ、注意しなきゃいけないのは、一方的に押しやつけて暗記ばすっぎんた、子どもは離れますけれども、これを読むことによって、こういうふうに楽しいって、こういうふうにつながるということがあれば、子どもは盛んに反応すっですもんね。

そういうことで、12月に今予定を、12月いっぱいまで予定をしておりますけれども、山内東小学校での、これは公立小学校では初めての、i P a d（アイパッド）教科書で授業をします、公開で授業をしますけれども、そういうふうに、有機的に連携していく、つながっていくような、先ほど教育長が話がありましたように、現代的な意味でつながっていくにはしていきたいと、このように考えております。おのずと、しっかりした教育があれば、子どもたちはおのずと伸びていくというふうに思っております。

## ○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まさにですね、人間、教育が原点ですから、よろしく、その辺を見据えて、学校現場でぜひとも取り入れていただくように御指導のほども、よろしくをお願いをしたいと思います。

そういった中で、杉原議員のときにも質問が出ておりましたけれども、秋田県がもう全国でトップですよ、学力テスト。市長も答弁をされておりましたけれども、なぜそこがトップなのか、その辺も原因といいますか、中身を調査していただいて、各武雄市内の小・中学校にもいいところは、すべてじゃないでしょうけれども、いいところをぜひ取り入れていただきながら、子どものためにぜひとも役立てていただきたいと思っておりますけれども、もう一度、市長、答弁をよろしく願いいたします。

## ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先日、武雄に藤原和博さんがお越しになりました。この方は、リクルートの中興の祖と言われて、杉並区立和田中学校に初の民間校長として赴任をされて、当時、杉並区に23中学校あったらしかですもんね。和田中学校は、ボッタ、あるいはボッタから2番目、あるいはよくて3番目というところが、5年たったときに、今もう断トツ、トップです。学力、英語を見ても、数学を見ても、国語を見てもトップです。

そいぎ、何で、私は聞きました。何で、こがんできの——あ、失礼。のところがですね、たった4年か5年間で上になったとですかで、こう聞いたですもんね。そいぎ、一言言いきったです。やっぱり子どもたちが集中力を切らさず、楽しく授業をすると。そいぎ、どがんすうぎよかですかと聞いたら、一つの方策として、和田中学校がしよったとはですね、授業に、例えば、大学生ですよ、あるいは高校生が教えに来よったと。大学生とか高校生が教えに来て、これは例えば、土曜とかですね。あるいは塾の先生が夜スペと言って、塾の先生が夜、補修に来よったと。これはできる生徒を中心にだそうなんですけれども、そういうふうに、地域力を補完して、あるいは先輩の力を補完してしよったら、子どもがおのずと、ああいう人たちになりたいということになって、おのずと伸びていったということ聞いたわけですね。

藤原先生におかれては、特別にお願いして、来年の2月13日、武雄のどこかのところで講演をしていただきます。そのときに、ぜひですね、これをごらんになっている、あるいはユー・ストリームを見ておられる親御さんであるとか、学校の先生であるとか、お子さんであるとか、来てほしかと思います。そうすることによって、ああ、やっぱりこういう方法もよかとねと。もし、この方法が悪ければ、自分たちでさらに考える、その手だてになるのではないかなと思っていますので、一つの大きなきっかけになるものと期待をしているところであります。

もとより、やっぱり地域力を生かそうということで、もう少しですね、今、小・中・高で、やっぱり分断されとうですもんね。それはもう当然です。しかし、一貫校とかじゃなくて、やっぱり今あるものをきちんと教育の場に生かそうということを教育委員会とよく相談しながら進めてまいりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっとずれるかと思いましたが、やっぱり子どもたちにも、今のレベルは、やっぱり知らせるべきというか、教えるべきだと私は思います。ただ、点数の結果だけをもって評価をするという考え方に、すべて賛同するかというぎ、それだけの問題じゃないもんです

から、学力、教育というのはですね。そういうことを十分考えながら、ぜひとも子どもたちのために、一番最初に申し上げました、教育は何のためにあるのかと、要は教育とは子どもたちの幸せ、幸福のためにあるというような部分の教育指導がありますから、ぜひともその辺を原点に置きながら、教育行政に携わっていただきたいと思いますので、切にお願いを申し上げておきたいと思います。

そういった中で、質問に移っていきますけれども、教育環境の整備について二、三点御提案を申し上げていきたいと思います。

全国で平成19年度に発達障がい者、学習障がい者、あるいは多動性障がい、あるいは自閉症、あるいはアスペルガー症候群の障がい者等が、いろんな障がいをお持ちの方々、発達障がい児と言われる方々ですけれども、教育行政も支援が必要な子どもたちへの環境整備も行政の役目、役割ということで私は常に思っております。そういった中で、今の武雄市内の、そういうふうな発達障がい者、発達障がい児の状況といいますか、どのぐらいいらっしゃるのかどうか、どのぐらい行政として把握をしておられるのかどうか、ちょっととりあえず確認をさせていただきたいと、御答弁をお願いいたします。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

特別支援教育に関して、19年度からさらに充実した取り組みをとということで私ども進めているところでございます。

お尋ねにありました、発達障がいのある子どもさんたちの把握ということでございますが、小・中ともに約二十数名さんを把握いたしております。その把握した二十数名さんというのは、保護者の方が学校に、こういうことですということを相談されている子どもさん。それから、担任から見た場合に、複数の先生方が、ちょっとここが気になりますという発達障がいの傾向があるのではないかという方が小学校で70名さんほど、中学校で20名さんほど。これは、やはり教員のほうも、いろいろ研修はしているわけですが、どのような症状がどうなのかという、やっぱりずれがあったりしますし、逆に、保護者の方からは申し出ないけれども、ちょっと心配だなというのも逆に。したがって、当然、学校で把握しているほうがふえているという状況でございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと補足をいたしたいと思います。

非常にショックだったのは、この前、東大の精神科医の先生とお話をしよったときに、いや、樋渡さんは今言えば、まず間違いなく自閉症ですねと、あるいはアスペルガー症候群で



すねと。もっと言いさった、多動性症候群ですと私、言われたとですよ。そういうあいは治療受けてきたですから言われたですもんね、私は。いや、私は、協調性がないとか集団行動は苦手です、いろいろ言われよっけんですね、そいは言うたですけど、少なくともそういう診断はされたことはないですよ。言ったら、いや、あなたがもし今の、振り返って30年前におったら、まず間違いなく、あなたはそうですというふうに自信満々言われて、非常に私はショックやったとですよ。

そのときに、じゃあ、なぜあなたは一般的にそういう成長ができたんですから逆に問われたときに、もう手伝いばさせられよったですもんね、家の。そいで、汗を流すきつき、喜び、あるいは、私は集団行動は今でも苦手です。しかし、一緒になって仕事をして、その仕事をする喜びとか、手伝う喜びとか、そういうことを本当にですね、もう親も、学校の先生も偉かったです、村島洋子先生。もう、たたき込まれたですもんね。だから、それが今私が、立派かどうかは別にしても、一定の社会生活を送れるという原動力になっとうわけですね。

したがって、余り構え過ぎてもだめ。放任し過ぎても、これまただめ。だから、そういう子どもの適性に応じて、やっぱり昔と違って今はわかりますもんね。字を読めない子でも物すごく発達する子とかも含めてですね、わかっけんですね、それに応じて、やっぱりきちんとすると。だから、これば学校だけに押しつけると、これは非常に問題ですので、やっぱりそこは家庭、地域が一緒になって、あの子はやっぱり、レッテル張りじゃないです。こういうよかこのあもんねと。だから、よかどこ探しで、こういうふうに、何というんですかね、子どもが楽しく健やかに過ごせるようにしていきたいなというふうに、自分の経験からそのように思います。私は、子ども時代、楽しゅうしてしょうがなかったですもんね。ですので、そういう実感を子どもたちに与えると、やっぱり豊かな人間形成につながっていくのではないかなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市長が言われる、かげんの問題も非常に大事か部分だと思います。そういった中で、障がい者という表現自体が私も余り好ましくない、いい表現とは思いませんけれども、障がい者は、得意分野があるわけですね。健常者にならばらしい可能性というか、いろんな部分を秘めている子どもさんが非常に多いという部分の中で、先ほど、親御さんたちが認識していらっしゃる方が小・中学校で20名程度、学校側で発達障がい児じゃなからうかという部分が約、小・中学校合わせて90名ですか。その子どもたちをどう学校側として指導していくか、また、親御さんたちに理解を求めていって、要は、主は子どもたち、子どもですから、やっぱり子どもを中心に考えてやって、そういう子どもたちに行政としてどこまでお手伝いができるのかどうか、その辺が今後の発達障がい児に対する対応といたしますか、検討課題だと思

いますから、ぜひとももう一度、その辺の学校で見た子どもたちの問題点あたりをいかに克服していくかという部分に関しては、今後の課題とさせていただきながら、検討をよろしくお願い申し上げていきたいと思います。

そういった中で、極端に言えば、20名と90名、約100名前後、そういうふうな障がい児的な小・中学生がいるという中で、ちょっと提案ですけれども、デジタル教科書、ダイジー教科書、要するに、障がい児がなかなか本が読めない、集中して読書ができないという学習支援の教科書としてデジタル教科書、ダイジー教科書が非常に普及して、積極的に取り組んでいる自治体があります。ぜひとも、武雄市としても、市長がマイ図書館構想ですか、いろんな部分で積極的にデジタル化を進めていただいております中で、そういうふうな障がい児に対するダイジー教科書の導入も、ぜひ先進的な取り組みを武雄市もしていただきたいということで市長に、また教育長にお願いしたいと思いますけれども、市長のほうから御答弁いいでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

たまたまなんですけどね、東京に出張したときに、ダイジー教科書を見る機会がありました。これはたまたまだったんですけれども、もうびっくりしたですね。これは、障がいをお持ちのお子さんだけでなく、我々大人でも、ああ、これは一般に本を読むよりも、そこに動画があったりとか、音声があったりとか、あるいは動きがあったり、そして、もう何よりも、やっぱり見よって楽しかですもんね。それが五感で伝わってくると。においては、もちろんありませんけれども、そういう体で入っていくと。普通、デジタルといたら、頭の中で思うじゃなかですか。しかし、今のデジタルは、アナログよりかアナログですもんね。でするので、そういう意味で、ただ、まだソフトの不足しとうわけですね、アメリカとかイギリス、シンガポールと比べると。でするので、だんだんこれが普及してくると思います。

でするので、我々が今議論をしているのが、多分1年たったときには、ああ、ああいう議論もしよったねていう、もうおとぎ話の世界、昔話の世界になるぐらい、今進歩が早うございますので、そういうのは教育委員会とよく共同して、積極的に取り入れてまいりたいと、このように考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひ前向きに取り組み、検討を早速していただきたいと思います。

本の影響ははかり知れないといえますか、生きていく上で情報というのは限られてくるわけですよ。どこから情報を得るかというぎ、もう本ですよ。そういった中での読書のすばら

しさですね。本から得る知識というのは、もう無限ですから、ぜひともその分に関しては、それは一般の方でも非常に、デジタル教科書といいますか、デジタル化は非常に今からの時代に即した先進的な取り組みだと思えます。

ただ、本の手ざわりという部分で、本もやっぱりいいという方も当然、中にはいらっしやいますけれども、今からの時代は、そういう時代にも入っていきますので、市長、御答弁をもう一度お願いしたいと思えます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

確かに、そうなんですよね。デジタル教科書を推進しておられる、例えば、先ほど名前を出した藤原和博さんであるとか、中村伊知哉先生とか、我々もお世話になってはいますが、菊地慶応大学准教授さんと話していると、行き着く先は、やっぱり紙の本に行くと言うですもんね。それは、やっぱりさっき議員がおっしゃったように、手ざわり感とか、ぬくもりとかというのは、紙の本にはかないませんので、だから、いかに、紙の本につながっていくかというように、もともと敬遠しよった子たちが、例えば「トイ・ストーリー3」を見たときに、やっぱり映画なり本で見たいというふうになりよおごたあですもんね。ですので、そういうふうに行き着く先は、そういう生の情報、アナログの情報に行けるように、そして、何よりも人間世界に関心がいくようにしていきたい。

そして、やっぱり、もう1つ本というのは、自信につながると思えます。例えば、これは村島洋子先生の的確な御指導だったですけどね。小学校5年生のときに「我が輩は猫である」を読まされよったとですよ。我が輩は小学生であると言うたぎんた、おそろしゅうくるわれたですもんね。でも、そいは最後まで読み通せた。わかっとうか、わかったらんかは別ですよ。しかし、「我が輩は猫である。まだ名前はなし」というところから覚えさせられて、読んだのが、それがやっぱり自信につながったと。だから、読書というのは、読み通すことによつて持続力と自信につながっていくということを、もっと子どもたちに体感をしてほしいと、このように考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

力強い御答弁をいただいてですね、ぜひともよろしくお願ひを申し上げます。

それとあわせて、もう1点御提案をさせていただきたいと思えますけれども、電子図書、iPad（アイパッド）の電子図書にあわせて、ウインドウ図書館、ウインドウ図書ですね、インターネット図書館も非常に好評といいますか、私もパソコンを持っていますから。例えば、ダウンロードをして、パスワードを入れれば、武雄市立図書館ともう一緒に連動するわ

けですから、そういった部分の中で、マイ図書館構想とあわせて、ウインドウ図書館も同時並行しながら、ぜひとも導入を。調べてみますと、初期費用というか、さほどかからないようなですね、私なりの調査をしたところ、費用的にもかからないようですから、その辺もぜひ検討していただいて、推進をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、おっしゃるとおりですね。ですが、ちょっとやっぱり順番があつてですね、世の中に、やっぱりこれだつていうことを思っていたくには、やっぱり iPad（アイパッド）、これは黒岩委員長もこの前の一般質問でおっしゃっていましたが、やっぱりこれだつていうことを思っていたくためには、もう全部、全方位的に広げるよりは、まずは iPad（アイパッド）に特化をして行うというほうが、社会的に、やっぱり進むぞという推進力のつくわけですね。その上で、先ほどおっしゃったように、余りコストも技術も、実はウインドウズのパソコン、あるいはウインドウ、さっき図書館とおっしゃいましたが、余りかかるとですね。ですので、それは著作権のありようも見ながら、徐々にそっちにそ野を広げていくということで、1つは推進力を iPad（アイパッド）でして、そのすそ野の広がりということでウインドウ図書館ということで進めてまいりたいと、このように考えております。

ただ、こいもですね、もう話題沸騰です。もうツイッターの中でも、ふざけたこと言うなとかですね、いろいろ書き込みがありますけれども、でも、やっぱり反発のあるところに、やっぱり進めていくって、進めんばいかんというとも、やっぱりああわけですね。もう既得権ば持つとう人たちというのは、必ず言われます。病院問題でよく経験しましたよ。ですので、そういった意味で、私としては、社会の福祉の維持向上のために、やっぱり闘っていきたいというふうに思っております。何よりも子どもたちのために闘ってまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、よろしく願いをいたします。あれもこれも同時にというわけには、非常に財政難の折に、非常に難しい部分ですが、将来を見据えた上で、今そういうふうな取り組みを御提案させていただきたいと思えます。

それと、次に環境の部分で、暑さ対策ということで、非常に熱中症で、全国でことしは4万1,000人が熱中症にかかれて、約100人ほどが亡くなられたという猛暑が続きました。そういう形で、生徒たちも非常に猛暑の中、教室で学習をしておりましてけれども、先ほど

の杉原議員の質問で、市長が、みんなの扇風機ということですので、ぜひとも、みんなのバスとあわせて推進をよろしく願いしておきたいと思います。

それと、環境整備の最後になりますけれども、先生の加配と配置をもう少しどうにかできないかという部分でちょっとお尋ねをしていきたいと思っておりますけれども、先ほど冒頭に言いました、来年度より学習指導要領が変わってきます。その中で、先ほど授業時間がふえますよという部分の中で武道が必修になってくるわけですよ。武道、柔剣道が。武道が必修項目ですよ。それから、外国語の導入、充実、それから、いろんな、先ほど冒頭言いましたけれども、授業時間が限られた中で、いろんな授業、多様化してくるわけですね。

そういった中で、小規模校の状況を見てみますと、例えば、私は北中校区におりますから、北中は、今生徒が120名で5クラスですよ。1年生が2クラス、2年生が1クラス、3年生が2クラス。先生が16人で教えていただいていると。来年、どうかすれば1クラスになるんじゃないかという部分の中で、1クラスになると先生が2人減るわけですよ。1クラス減って、先生が1人であればわかる、わかるというか、多くいらっしゃったがいでしょうけれども、1クラス減ることによって先生が2人減になるわけですね。16名現在いらっしゃる中で2名減になると、比率でいけば12.5%ですよ。武雄中学校は55名いらっしゃいます。例えば、武雄中学校で1クラス減って2名減になれば、影響は3.6%。1人の先生のウエートが、大規模校、小規模校と、ウエートが全然違うですよ。北中では2人先生が減れば12.5%減、大規模校の武雄中学校では3.6%。小規模校でのクラス減による先生の減の影響がいかにか大きいというのが数字で皆さんおわかりになるかと思っております。

あるいは、加配制度ですね、県がある程度、枠を決めていますもんですから、ちょっと自由裁量はできない状況ですけれども、要望はできるかと思っておりますけれども、やっぱり小規模校になってきますと専門の先生がいない、あるいはクラブ活動の顧問の先生ももういらっしゃらないということが現実に、そういう事象が出てきております。あるいは、先生が2つの中学校を掛け持ちですよ。例えば、武雄北中において、午後からは山内中学校に行かれるとか、あしたは北中、あさっては川登中学校と、掛け持ちで先生が生徒たちに教えていらっしゃるといのが今の学校現場の現状ですよ、先生の配置、加配というふうな部分の中で。

そういった中で、教育長、教育の公平性、教育の平等性とは何ぞやという部分の中で、教育は子どもたちにとって平等に公平に与えるべきではないかというふうなことを思う一人でありますけれども、そういうふうな今の小規模校の状況、現状を考えたときに、やっぱりいま一度、あと2年後、3年後の状況を見据えて、今どういうふうな措置を県のほうに要請をすべきなのかどうか、その辺を的確にやっぱり、今の状況の中でつかんで、ぜひ県のほうにも申請、要望をしていただきたいと思いますと思う一人でございますけれども、その辺の御見解を教育長、お尋ねをしていきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

北中学校ならずとも、小規模化というのは片方にあるわけでございます。

武道等の、中学校の指導要領は再来年からになるわけですけれども、いずれにしましても、いろんな面で小規模化した場合の、今、教員の配置を中心に述べられたわけですけれども、部活の指導等含めまして、大変な課題が生じることは承知しているところでございます。

現在は、加配が1名と、もう1人は兼務という形でおられるかと思えます。川登中と北中を曜日で動いていらっしゃる。そういうことが幾らかは、今後、小規模化した場合には出てくるだろうと思えます。

一番用心しておりますのは、やはり専門の先生がその専門を教えていただくと、それがどういう形で可能かということでありまして、これは教育事務所、県等にも相談をいたしまして、極力、教育環境の整備という点で今後も進めていきたいというふうに思えます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、よろしく願いをしておきたいと思えます。もう2年、3年後は、今の時点で言い続けていかないと、なかなか県も動かないと思えますから、先ほど申し上げましたように、小規模のそのような現状で、現実ですから、いかに先生の1人のウエートが大きいかという部分がありますので、また先ほど申し上げたように、小学校まではクラブ活動で野球をしてきた、あるいは剣道をしてきたけれども、中学校ではクラブがないと、そういう子どもたちを今後どういうふうな形で、そういう野球とか剣道、武道を教えていくかという部分が非常に、指導者がそこには必要なわけですから、ぜひともその辺は、もう来年、再来年の状況を見据えた上で、早急に対応の検討を今からでもしていただきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げながら、教育行政の最後に入っていきますけれども、人材育成というふうな部分の中で、ニュースでは全国的にいろいろな教育委員会での謝罪といいますか、ふしだらな先生等の謝罪もあっていましたけれども、武雄市管内においては教育長の指導のもとに、いろんな研さん、研修も行われて、的確な教育行政もしていただいていると思えますので、ちょっと目線を変えて、人材育成という面で、市役所の職員の方々の教育研修はどのような形で計画をされておられるのかどうか、お尋ねをしていきたいと思えます。

我々もいろんな形で研修をさせていただきながら、例えば、行政視察あたりも先進地に行かせていただいて、すばらしいところをやっぱり学びながら、いかに武雄市政に結びつけていくか、また反映させていくかという部分で、非常に研修というか、人材派遣、交流というのは、私は積極的にやるべきと考える一人でございます。市長、その辺の御見解と今後の取り組みについてお尋ねをしていきたいと思えますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、専門研修として自治大学や市町村アカデミーの専門機関を活用した研修、あるいは専門家を講師に招いた研修、その他、市町村振興協会や広域圏などが実施する研修に参加、これは余り役立たんですね。やっぱりですね、一番参考になるのは現場です。もう現場。そういう意味から、松尾陽輔議員のおっしゃったとおりです。

今、それを踏まえて、横浜市、長崎市と人事交流を実施しています。これは物すごく、やっぱり評判よかですもんね。そいで、なおかつ、今まで県等に出しよったですけど、これはもう全面的に見直します。限られた枠の中ではありますけれども、本当に意欲があって、やる気のある人間を今後、例えば、今ちょっとこれ交渉していますので、固有名詞は出しませんけれども、電子教科書であるとか、マイ図書館構想を推進しているIT企業がああわけですね、何とかバンクで。そこに出したいと思っています。ですので、そういう意味からして、公のところ、役所だけじゃなくて、そういう民間のところでも本当に我々が取り入れてばかり、謙虚に取り入れてしかるべきところには、どんどん出していきたいと。

私がおった総務省は、ろくな役所じゃなかったです。本当に。しかしね、やっぱり僕は今でも感謝しようとは、私を例えば、高槻市に出してくれたりとか、あるいは沖縄に飛ばしてくれたりとか、本当にそういったことで現場を知る機会というのが物すごくあって、それが血と肉となって、今の地域行政にやっぱり生かされるわけですね。ですので、それをやっぱり職員にも出して、やっぱり学んできてほしいと。そこで実際交流をしてきてほしいと。2年あったら、友達もいっぱいです。

それで、これは最後にしますけれども、三木市に菰田康彦君を第1号として派遣しました。やっぱり帰ってきたときは大きな人間になっていましたよ。（発言する者あり）はい。ですので、そういうことで、あと小田君が来たときもですね、いまだにやっぱり交流の進みようですもんね。だから、そういう人と人のつながりが線となり、面となるようにしていきたいなというふうに思っております。

昔の長崎、遊学の地でありました。今度は武雄がその遊学の地になるように、やっぱり頑張っていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まさに、私もですね、人を育てるのは現場と。公明党も、現場第一主義の公明党ですから、現場を大事にしていきたいということをお願いしながら、次の質問に入っていきます。

次、平成23年度の予算編成に向けて、何点かお尋ねをしていきたいと思います。

今や市役所も、武雄市内の一企業体といたしますか、一大企業ですよ、武雄市役所も。その中で、ただ、企業といえども、民間企業と2つ違うところがあるとですよ、市長。民間企業と市役所企業とは、どこが違うと思われますか。2つ違います。それは何かといえば、市役所企業は、民間企業と違うところは、営利団体ではないということです。利益を追求しないと、ですね、が民間企業と違うところ。もう1つは、皆さんの税金で運営を、運用をしているということです。そこが民間の企業と違うところですね。

そういった中で、1つ目の営利企業ではないという、営利企業ではないから、予算、決算は二の次でいいよというわけいかんとですよ。要は、自治体も倒産をしているわけですから、北海道の夕張市、破綻ですよ、倒産。そうなったときに、市民の皆さんはどうなるかという部分に関しては、いろんなところで報道もなされていますので、ここでは触れていきませんが、やっぱり決算、予算というのは非常に、我々議員もチェックをしていくべきところですから、改めて、しっかりと今回チェックを入れていきたいと思えます。

そういった中で、平成19年6月に財政健全化法が成立をいたしました。その中で、要は地方分権、地方が自立しなさいよ、地方の財政基盤を強化していきなさいよというのが表に出てきまして、財政情報の透明性、それから自己責任が問われるようになってきました。

そういった中で、武雄市も、平成21年度に新公会計制度の対応システムの導入をされています。このことは、私も、平成20年、今から2年前の9月に一般質問の、この新会計モデルの導入にあつて御提案を申し上げておりました。この新会計導入に当たって、基準モデルと改訂モデルという2つのモデルがありますよ、どっちを武雄市は選択されますか、私は企業会計に準じた基準モデルを採用すべきですよということで御提案を当時、2年前にさせていただいておりました。

そういった中で、今回ふたをあけてみますと、提案どおり、提言どおり基準モデルで武雄市は採用させていただいて、この新システムの導入をされているようでございます。

ただ、この基準モデルと改訂モデル、全国自治体の状況を見てみますと、全国に1,732自治体があるわけですね。そのうち、基準モデルを取り扱ったところは6%、110自治体しかないわけですよ。もうほかのほとんどは改訂モデル採用で今回のシステム導入に当たっておられます。

ただ、先ほど申し上げましたように、私が平成20年9月に基準モデルをぜひ取り入れていただきたいという部分の中で、今回、武雄市も基準モデルの導入をされておりますけれども、いま一度、どういう理由で基準モデルを採用されたのかどうか、市民の皆さんにわかりやすいような御答弁をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。お願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕



お答え申し上げます。

新公会計制度につきましては、御指摘のとおり、大きく基準モデルと総務省の改訂モデルがございまして、武雄市は基準モデルを採用したというところでございます。

その基準モデルにつきましては、今の武雄市が持っている資産を正確に評価すると、そういうふうに正確に評価することでございますので、非常にハードルは高いと。ハードルは高いんですけども、それが非常に、いろんな分析において有用であると。将来、総務省の改訂モデルを採用されたところであっても、行く行くは基準モデルに変わっていくというふうに思っております。

ハードルは高くても挑戦いたしました。いわゆる資産は正確に表現するという、そういう理由で採用したところでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

やっぱり総務省も、けしからんですよ。やっぱりですね、この手のモデルをするときというのは、全国、やっぱり一律にせんぎんだですよ、他の自治体との比較のできんわけですね。もう総務省はすぐ逃げる。前の大臣のときは、もっとすぐ逃げた。です。ので、何を言いたいかという、やっぱりですね、病院の民間移譲のときも、やっぱり総務省は、もう民間移譲すべきだというふうにしたら、それを統一、そろえて、やっぱりせんぎですよ、こいば、例えば、独法化とか、あ、これ聞かれていませんね。地方公営企業法の全適用とかすればですよ、それはやっぱり現場が混乱すっですよ。です。ので、本当にね、国の情けなさの証左の一端が、この会計モデルに出ていると思っておりますので、先ほど勇気を出して、今後こうなっていくだろうという基準モデルに、私自身もそれを追認した次第であります。もう公明党さん、ぜひ国会の場で言うてください。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

私も当然ですね、総務省がもう統一すべきなんです、これは。各自治体に選択しなさいというやり方は、もってのほかですよ。そういった中で、以前は決算カードが全国の基準モデルといいますか、ですね、統一した決算の分析資料やったんですけども、これではなかなか自治体の中身が見えてこないという欠点がありましたので、今回、そういうふうな基準モデルと改訂モデルの採用になったんですけども、もう極端に言えば、基準モデルは1,732団体のうち110しか取り組んでいないもんですから、ほかの自治体と比較のしようがないわけですよ。そうなってくると、今後、武雄市で取り上げられたというか、その基準モデルを

いかに分析して、いかにそれを今後の予算編成等に生かしていくかという部分が大事になってくるわけですね。今までは、ほかの自治体と比較して、ここが劣っている、ここがすぐれているという数字が出てきていましたけれども、今からの決算は、そこが見えないわけですから、単独で決算を分析しながら、今後の予測を判断していかなければならないということですよ。

そういった中で、いま一度、その基準モデルの採用に当たっての認識といいますか、今回の基準モデルを導入された後の今後の分析と把握に対する御見解をいま一度お尋ねしていきたいと思っておりますけれども、御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

財務4表の中から、資産形成度、それから世代間公平性、持続可能性、効率性、そういうものを分析するという事ですから、先ほど申し上げました資産が正確に反映されなければならないというふうな形で基準モデルを採用したわけでございます。

その分析の視点といたしましては、経年比較、これは20年度から始めていますので、まだ1年ですので、なかなか経年比較はできない。類団比較、今言われたように110団体しかないということで、類団比較もしなくちゃならないですけど、将来多くなったら十分な類団比較ができるんじゃないかと。あるいは、基準値、目標値比較、そういうのをいたしまして、今後の行財政運営に生かしたいと。当然、今まで分析していました財政健全化法に基づく指標、4つの指標ですね、それもあわせながら分析していきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、よろしくお願ひを申し上げながら、先ほど答弁の中で、財務4表という話も出ておりました。財務4表、私が企業会計を若干させていただきながら、やっと待ち望んでいた資料が出てきたといいますか。（パネルを示す）

会計処理には2通りあるわけですよ。単式簿記と複式簿記。公会計は、今までは単式簿記の現金主義やったわけですよ。単式簿記とは何ぞやということで説明しますと、単式簿記は、歳入と歳出、お金が幾ら入って、お金が幾ら出ただけしかわからないわけですよ。ここで資産とか負債が幾らあるのか出てこないわけですね、これが単式簿記ですよ。これが今回の公会計、新しいシステムの導入によって、また財務指標ができ上がることによって、複式簿記で実態把握をするようになりました。

この複式簿記は、資産があって、この資産をどこから調達してきたのかどうかが一目瞭然でわかります。武雄市の今財産が幾らあるのかどうか、今までわからなかったわけですね。

しかし、今から武雄市の財産がわかります。表面に出てきます。借り入れが幾らあるのかというの出てきます。一般会計だけではなくて、すべて、特別会計全部、連結決算で数字が出てきますから、すべて明らかに武雄市の財政状況が出てくるという部分の中で、今回、財務指標ができ上がってくるわけですけれども、貸借対照表、それから行政コスト計算書、企業でいえば損益計算書ですね。それから、純資産変動計算書、それから資金収支計算書、キャッシュフローと俗に言いますけれども。こういうふうな部分で、手元にも資料をいただきました。新公会計財務諸表の説明書ということで、先ほど申しあげました貸借対照表、行政コスト計算書、それから純資産変動計算書、資金収支計算書という部分の中で、全容が出てきました。

こういった中で、この資料によってどういうふうな情報が得られたのかどうか、どういうふうに分析をされたのかどうか、お尋ねをさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

市単独やなくて、連結でお答えいたしたいと思います。

まず、貸借対照表では、純資産が779億円程度あると。それが総資産に対する純資産比率が60%程度ということが数値上わかっております。行政コスト計算書におきましては、純経常コストが218億円、この部分は税金等で賄われるしろものだというふうに思っております。それから、純資産変動計算書におきましては、期末の純資産残高が779億円。それから、資金収支計算書、キャッシュフローでは、期末の資金残高が20億8,300万円というふうになっております。

そういう情報が得られて、課題ということでございますが、数値としては、今申し上げたとおりでございます。その数値の意味するところ、これにつきましては、先ほど申し上げました経年比較等、類団比較、基準値比較等を行うことが必要というふうに考えております。

ただ、武雄市の行政課題、行く方向はどうなんだと、どちらの方向に行くんだという、そういう全国平均じゃなくて武雄市の持っている地域課題を解決するためにどういう財政運営をしていくんだということから、それぞれ、その数値がいいのか悪いのかを判断しなくてはならないというふうに思っておりますので、20年度会計から始めて、まだ日が、1回目でございます。各団体が出そろって、周辺比較も含めて、あるいは先ほど申しました財政健全化法に基づく各数値合わせて評価していきたいというふうに思っておりますので、評価については今後の課題とさせていただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっと、いまいちですね、その辺の分析課題が見えていないような答弁でしたけれども、例えば、貸借対照表ですね、資産が幾らあって、負債、自己資金が幾らあるかという部分の中で、未収金があと25億1,600万円あるわけですよ。武雄市の未収金、取るべきお金ですよ。これが何なのかという部分ですね。あるいは、職員の皆さんがあしたづけで全員退職されれば、退職引当金、幾ら足らんのか、49億4,700万円積まんばいかんとですよ、まだ。足らんですね、今から積み立てをしていかにといかにですよ、これだけ、約50億円。そういう部分が見えてきます。あるいは、資金収支計算書、キャッシュフロー表、年度最初40億円あったお金が期末に20億8,300万円、20億円お金が減ったわけですよ。この減ったお金はどこに行ったとやろうかという部分がこのキャッシュフローから出てきます。そういうふうなところが、この評価が今後見えてきます。

ただ、1期だけではわからんもんですから、これが2期、3期連続して見れば、傾向性が出てくるわけですよ。問題点がはっきり出てきますから、その辺も今後、機会があるごとにチェックを入れていきたいと思えますから、執行部のほうも、この辺は的確に分析をさせていただいて、今後の予算のマネジメントに大いに生かしていただきたいということを念を押しておきたいと思えます。

どうかよろしくお願いを申し上げます。次の質問に入っていきます。

次は、事業仕分けによる地域経済、予算への影響が武雄市にあるのかどうか、ちょっとお尋ねをしておきたいと思えます。

民主党も、政府・与党も、埋蔵金、事業仕分けで16兆8,000億円ですか、資金を捻出すると言っておきながら、余りにもほど遠い、1兆円ぐらいしか出てきとらんとですよ。（「1兆円も出とらんばい」と呼ぶ者あり）うん。あとの15兆円の財源はどこから持ってくるのという部分ですよ。無責任極まりない。

そういった中で、中身をチェックしてみますと、利根川のスーパー堤防は廃止しますよと言いながら、片や、群馬県の八ッ場ダムは中止をもう一回何とか建設へというふうな話も出てきております、現に。あるいは、フリーターのジョブカード、民主党はマニフェストにうたいながら、事業仕分けでは廃止と言いながら、また復活と。何が何かわからんような状況の中で、一貫性がないといえますか、こういうふうな状況で地域が、また自治体が予算が立てられるのかどうかというのを非常に危惧している状況の中で、そういった状況の中で、事業仕分け等で、そういうふうな経済への影響、予算への影響は武雄市にとっては出ていないのかどうか、ちょっと確認をしておきたいと思えます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう仕分けはね、でたらめですよ、本当に。もうね、仕分けの対象を民主党にしてほしい

ぐらいですよ、本当。これは笑い事じゃなくて、本当にね、シルバー人材センター、これね、民主党が何て言ったか。もうこんなの役に立たないと。どうですか、皆さん、シルバー人材センターの人がどれだけ苦勞して、どれだけ自分たちで雇用を確保してやろうとしている、そういう人の心を、気持ちにないがしろにしちゃいけませんよ、民主党は。

あるいは、介護予防事業ですよ。介護予防事業もね、これはビジネスばいとか言うて。違いますよ。これは福祉です。それを、縮減割合等不明であるけど、これも削りたい。あるいは、中小企業の経営支援、これも直接効果のなかけんということで、これも削る。あるいは、高齢者の医療円滑化等の補助金ですよ。これも、もう国は抱え切れんと。これは財務省の言いなりになっとうですもんね。あそこも、ろくな役所じゃない。

ですので、そういうことを、本当にね、政治主導じゃなくて、これは官僚主導ですよ。私も昔おったけん、ようわかります。だから、そういうですね、もうたたきやすかところをたたくとはやめて、本当にこの国の形を、「坂の上の雲」を目指して、やっぱり考えてほしかですよ。そう思うですよ。そこに、やっぱりですね、もう民主党の暴走に歯どめばきかせんばいかなですよ、公明党さん。いや、本当に。

ですので、我々も地域の声、ひなの論理として、それは言いますけれども、本当にね、これで、我々、しかもね、司令塔のどけおんさあじゃいわからん。もう仙菅大和ですよ、今。仙谷さんという人が総理で、この前、予算委員会で呼ばれんさったじゃないですか、仙谷総理で呼ばれんさったですもんね。菅さん、目、点になっとなさったですよ。だから、そういうふうに予算の司令塔がないから、我々は国の予算、あるいは施策に応じて予算ば立てられんとですよ。

ですので、我々としてはですね、やっぱり言うべきことを言う、そして、するべきことをする、そして、もう1つ、我々、地域、地方に課せられた課題として、やっぱりもう、こがん役に立たん国におんぶにだっこじゃなくて、やっぱり自立する気概を持って、市民の皆さんとともに進む、これが私は一つの道だというふうに思っております。これは、私は年末、全国放送に出ます。そのときに声を大にして言うてきますので、また帰ってきたら、慰めてください。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

若干影響を来すようですので、ただ、見直すべき事業は見直ししながら、また、復活していくべき事業は復活交渉しながら、その辺は大いに、いろんところで私も訴えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げながら、ちょっと私もその辺が危惧しておったもんですから、ちょっと確認をさせていただいたところでございます。

そういった中で、今回も事業の再仕分けの中で、特別会計の埋蔵金、市長、武雄市に埋蔵金はないでしょうね。ちょっと確認を、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ございません。国の埋蔵金というのは、あれ、もともとですね、また役人のやり方は、わけのわからん等とか入れてですね、等の中に埋蔵金ば2,000億円ぐらい埋め込むとですね。うちは埋め込むお金のなかですもん。ですので、埋蔵金はございません。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

国の特会と地方の特会は全然違いますから、性質が違いますから、当然ですね。私も決算委員会の中で、その辺の確認もさせていただいたところでございます。

そういった中で、次の質問に入っていきますけれども、財政の健全化と予算編成をしていく上で、ビルド・アンド・スクラップ方式というやり方があるわけですね。ビルドとは何ぞやといったときには、やっぱり市民の生活、サービスの向上に政策事業はしていくべきところは、事業をやっぱり展開をしていかにやいかん。それがビルドですね。その財源、スクラップをどこから財源を見出していくかという部分ですよ、ビルド・アンド・スクラップというのは。

そういった中で、昨年の政策事業費、政策総事業費はどのくらいあるのかどうか、また、今年度、どのくらい政策事業費を見込んでおられるのかどうか、数字がわかれば、ちょっと御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

政策事業費、いわゆる投資的事業費でございますが、その総額は、平成21年度の普通会計におきましては32億円、平成22年度の普通会計の見込み額でございますが、これは政府の経済対策等々ございまして、ふえております。41億円でございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

21年度が32億円、それから、見込みとして今年度22年度が41億円ですか。その財源補てんをどこから見出していくかという部分ですよ、要は。そういった中で、スクラップというふ

うな部分の中で、削減目標はどのくらい武雄市としては立てておられるのかどうか、その辺も数字がおわかりになれば御答弁をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

山田政策部理事

○山田政策部理事〔登壇〕

平成19年3月に作成しました武雄市行政改革プランの中でございますけれども、そこで目標を立てておきまして、人件費の削減ということで、22年度までで33億9,000万円、それから事務事業の見直しということで8億7,000万円、あと健全な財政運営の推進ということで7億4,000万円という目標を立てているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さらに加えて、我々としては、病院の民間移譲を果たした、ちょっと訴訟の問題はちょっと後にしてですね。病院の民間移譲で、実は今の旧市民病院ですよ、あその川良の山の上の建物から500万円近くの固定資産税等が入る見込みであるんですね。それに加えて、今度新しく病院が、学校並びに職員寮合わせると、やはり七、八千万円のだけの固定資産税が単年度で入ってくる。しかも、今まで公務員の皆さん、職員の皆さんというのは大部分が公務員の皆さんだったんですよ。これが100人、大体あったのが、今もう300人近くなっていると。それが今後ふえていくだろうということになっていくと、彼ら、あるいは彼女たちの所得に税がかかります。これも武雄の近く、武雄に住むことによって固定資産税も踏まえて入ってくるということになると、これこそ本当にですね、税収確保にも、まあ、命の問題というのはもちろん大切ですが、あわせて税収確保にもなるんですよ。

ですので、そういった意味から、何で訴訟を受けるのか、やっぱりようわからんです、私は。締め切り期限も守らん。ですので、そういうことに私は、司法の場でそれは闘ってまいりますけど、やっぱり市民の皆さんたちが今、どんどんどん、あの病院が建っていくということで、大分御理解も深まってきていますよ。今まで市長に反対やったばってん、もうきょうから賛成すって、きょうも言いんさったですよ。ですので、そういう市民の弱い声を大事にしながら、我々は一方として、政策ベースとして税収が確保できるように進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、よろしく願いをしておきます。

もとに戻りますけれども、削減目標を明確に立てておられますので、ちょっと時間もあり

ませんので、次回の質問のときに、その達成率等も確認をさせていただきますので、よろしく願いをしておきます。

それと、もう1点、財政健全化の点で、事務事業の簡素化と合理化についてお尋ねを、確認をさせていただきたいと思えます。

先ほど申し上げました貸借対照表に、ここに……、じゃなく、すみません、行政コスト計算書、損益計算書の中で、補助金等に支出が264億円、補助金等に支出が出ているわけですよ、全体で。264億円ですよ、補助金等に。その補助金の団体数と、どのような補助事業が264億円かかっているのかどうか。ちょっと時間の関係上、簡潔に御答弁をお願いしたいと思えますけれども。どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

先ほどの決算書では、そのような264億300万円でございますが、内訳といたしまして、国保の医療費交付金とか、それから老保の医療費給付金とか、あるいは競輪の払戻金、あるいは広域圏の負担金等入ってございまして、実質、いわゆる議員言われている補助事業、補助金というのを見てみますと、平成20年度決算では9億4,800万円という金額でございます。いわゆる19節、負担金補助及び交付金の補助はですね。

そういうことで、100事業で約300団体に対して補助を行っているというところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

264億円全部が補助金にされているというのはですね、私も当然理解をしているところですけれども、先ほどおっしゃった9億4,000万円、100事業の約300団体に支給されているというふうな補助金ですね、要は。補助の部分ですけれども。

いろんな団体があるかと思えますけれども、その辺の団体の自立はできないのかどうか、また、補助金だけに頼らず、自主財源の捻出するような事業はないのかどうか、その辺もぜひ今後精査をすべきではないかと。あるいは、事業がラップしているところの補助先はないのかどうか、その辺の具体的な検証作業はされているのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思えますけれども、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

山田政策部理事

○山田政策部理事〔登壇〕

補助金を受けていらっしゃる団体につきましては、現在、自主財源を確保できないという



団体も数多くありまして、市としましては、それらの団体に、公共的活動を行っている部分についてというふうな形で助成を行っているところでございます。

補助金の交付対象につきましても、1回はですね、合併時に調整を行いながら整理を行っているところでございます。

また、交付しているというふうな、いろんな補助金要綱、それについても、必要な部分につきましては見直しを行っておりまして、今後も、例えば、補助金、時代の流れに適合しなくなった、そういうふうな団体が出てきた場合につきましては、補助金の廃止というものも必要だというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

見直しも行っているという話も出ておりました。ちょっと今、300団体を私がすべて仕分けするというわけいかんもんですから、ちょっと時間をいただいて、中身を精査をさせていただきながら、見直しできる分は見直しをしながら、また、自主財源、団体で財源が確保できる団体はないのかどうか、いろんな考えというか、いろんな知恵を出し合いながら、ぜひともこの辺は手がけていくべきだというふうな形で思っておりますけれども、市長、何か御答弁があればお尋ねをしておきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そこで参考になるのは、武雄市商工会だと思うんですよ。例えば、旧山内町の商工会のときは、黒髪の里であったり、あるいはなな菜であったり、そういう事業をされている。それが全国的に、やっぱり誘客効果があって、そこでは単体としては赤字なのかもしれないけれども、もう1つの効果として、そこだけ来んさあわけじゃなかとですね。例えば、なな菜に来た人は、じゃあ、次どこ行こうかてなるけんですよ、そういうふうにしていただいたら。そして、旧北方、今非常に活発に活動されていますけれども、例えば、ちゃんぼんロード、いっぱい今テレビに出ようすもんね。ギャル曾根さんまで出んさったすもんね。ですので、そういうふうによくマスコミを活用して、やっぱり呼び込むということは、旧の北方、そいけん、武雄市の商工会は、田代会長ですけど、もうすごかて、やっぱり思いますよ。ほかのところは言いませんよ。

それともう1つですね、やっぱり考えているのは、物産館ですよ。あの物産館も引き継いだところは、もう赤字、がたがたです。しかし、大渡社長が頑張られて、今黒字で、しかも、あそこの一膳飯屋、この前、坂本冬美さんの来んさったすもんね。坂本冬美さんが来んさったばってん、だれも気づかんで、本人、むくれんさったらしかばってんが、それはそれとして、

あの波及効果ですよ。藤あや子さんでしたっけ、あの人はみんな気づきんさったごたあですけど、物すごい、やっぱりですね、それがあって、そして地元の皆さんたちに愛されているということであれば、やっぱり、補助金あるなしにかかわらず、やっぱり我々がせんばいかんとは、そういったところを後押ししていくと、背中をもっと押すということが必要なんじゃないかなというふうに思っていますので、ぜひそういう意味で、ほかに名前を挙げられなかったところもたくさんありますけど、頑張ってください、我々を引っ張って行ってほしいなというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まさに、やり方次第だと思いますから、その辺もぜひとも検討しながら、お願いをしたいと思います。

私も、11月の9日、先月でしたか、B級グルメまちPRということで、北方町の34店舗のぼり旗が登場というですね、大きくチラシに、新聞に報じられておりました。ぜひとも、これが起爆剤となって、あのロードがにぎわうことを切望している状況の中で、行政としてもバックアップできるところはバックアップをしていただきたいというふうな形で思っております。

それでは、時間が迫っております。そういった中で、市の提案制度の導入をということで御提案をしておりましたけれども、ぜひとも前向きにこれは検討していただきたいと思っております。

それでは、最後の質問、地域の課題と対策、対応についてお尋ねをしていきたいと思えます。

イノシシ問題は、杉原議員も先ほど話が出ておりました。イノシシの分に関しては、いのししパトロール隊が回っていただいております。非常に市内全域を巡回しながら、捕獲のお手伝いとか、いろんな部分でしていただいておりますけれども、ある一部では、役目をもう少し、任務をもう少し言っていたらいいかなことには、素通りして、どこまでパトロール隊にお願いができるのかどうかという、そういうふうな周辺部では話が出ております。

そういった形で、パトロール隊の役目と要望といいますか、その辺がどのような形でパトロール隊が巡回をされているのかどうか、ちょっと御答弁がいただければと思いますけれども。お願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

淵野営業部長

○淵野営業部長〔登壇〕

いのししパトロールの任務についてでございますけれども、いのししパトロールは、武雄

市内を4地区に分けて、2名1組で回っております。このいのししパトロールは、狩猟免許を持っていませんので、パトロールをして、市民の方からの苦情、それから、出没地の把握等を行っていきまして、最終的に、困っているところには、猟友会の方と一緒にいって、わなを仕掛けるということをしております。

そういうことで、いのししパトロールが始まりまして、住民の方からの依頼、調査、それから、わなの設置までの時間が短くなったということで、迅速に対応できるようになったということで思っています。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

周辺部のニーズというか、要望も多様化していますから、パトロール隊も限りのある人数でやっていらっしゃいますから、十分な対応が行き届かない部分があるかと思えますけれども、何とか、いろんなイノシシ被害等が今大きくなっておりますので、対策、抑制のためにも頑張ってくださいと思います。

それと、地域防災、最後ですけれども、地域防災が9月1日、防災の日ということで、各地で実施をされておりました。武雄市内でも9月の5日、各地で行われております。若木町でも4回、いろんな地域の防災訓練が実施をされていますけれども、いろんな課題があるわけですよ。連絡がなかなかですね、現場は一生懸命救助に当たっているけれども、本部からなかなか指令が、まだ来ていないから始動できないとか、あるいは要介護者を退去させて、なかなか待ち時間というか、待たせながらという、いろんな問題が出てきております。その辺の総括は、地域防災訓練に当たっての総括はされているのかどうか、また、総括をされた結果が次年度の訓練に活かされているのかどうか、ちょっと不安というか、あっていないんじゃないかという部分が見えてくるものですから、その辺の対応というか、総括がどのような形で行われているか、最後の質問にさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

訓練の総括でございますが、日曜日にもかかわらず、消防団の皆さんには本当に協力いただきまして、ありがたく思っております。そのような消防団による避難訓練、それから、今回新たな取り組みとしてツイッターを用いた訓練等々を行っております。

御指摘のように、アンケート結果にも、有意義な訓練であったという反対の意見として、情報伝達ができていないとか、緊張感がなく時間をもてあましたという、そういう指摘もあっております。

毎回アンケートを行っておりますが、それを反省しながら次回の訓練に参考にいたしてお

ります。そういうことで、十分に意見を参考にして、よろしくお願いたしたいと思います。